

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200999		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイ西里 (コスモス)		
所在地	静岡県静岡市清水区西里1460-1		
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果市町村受理日	令和3年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2294200999-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“その人らしく、安心した暮らし、なじみの暮らし”を理念に、利用者一人一人の個性を大切に、信頼関係を築きながら尊厳と自信のある暮らしが継続できるよう支援しています。また、礼儀礼節マナーの強化とサービス業である事の自覚を高める。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

私事や「65歳以上で」との離職は数名あるものの、「此処が合わない」「無理…」といった退職者がおらず、「働きやすく、チームワークがよい」ことが自慢の事業所です。「三匹のタイ(誉められタイ)(認められタイ)(お役に立ちタイ)」を事務所に掲げ、管理者がその人のいいところを見出し、管理者には出来ないがその人は得意というものを依頼したり、担当することで職員の有用感が増していることが功奏しています。職員の意欲の増幅は「その数ナント12名」と貴重な若い男性職員を法人に仲介したり、息子がお母さんを紹介するなど事業所全体の益に実っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誹謗中傷陰口の徹底追及と禁止、又自分に厳しく人に優しいをモットーに更に職場環境は改善されている。 新人育成とオリエンテーションにて取り入れている。	「その人らしく、安心した暮らし、なじみの暮らし」との法人理念は当たり前のこととし、管理者が自分で「三匹のタイ(誉められタイ)(認められタイ)(お役に立ちタイ)」を掲げ、「すべてに誠実である」ということを推進しており、職員に浸透しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ対策として最大限の配慮にてバーベQや行事は行っている。	地域中学校の職業体験、草むしりなどの地域清掃や防災訓練、森林公園まつりなどこまめに取り組んできましたが、コロナ禍ですべてできなくなっています。自治会長は広報を届けてくださり、自治会長の交替やアンテナ塔の不具合などの情報も随時入手できています。	2ユニット目の開設も叶い、職員配置も安定してきていることから、今後は山間地域ならではの困りごとや課題にも目を向け、力を貸してゆくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括主催の近隣施設管理者との意見交換イベントに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策に向け、延期通知済み。 現状年6回の運営会議が出来ておらず、地元包括や組合長との連携を強化していく。	コロナ禍となり、6月と9月の運営推進会議は、市役所に問い合わせ「2ヶ月間の活動内容をまとめておくように」との回答を得て、メンバー(自治会長 家族 地域包括支援センター)に書面連絡をおこなっています。	条例下の制度であることから、行政の出席は考慮すべき点として、地域包括支援センターには書面を確認したこともともに意見をもらえる仕組みとすることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市・地域包括支援センター・地元自治会と相互の協力体制を築いている。 地域包括支援センターを通じて、情報ももらったり、またサービス利用など介護に関する相談に応じている。 防災、コロナ対策につき連携強化している。	現管理者着任当初から地域包括支援センターには陰ひなたなく応援を受けています。地域包括支援センターの音頭とりで近隣事業所が集まり、コロナや防災の対策について話し合う場があり、貴重な情報共有の機会となり、今後も年2、3回開催される予定です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状、身体拘束は行っていない。 職員にも理解してもらう為に、何かあれば、その都度説明をし取り組んでいる。 スタッフ会議、管理者会議にて話し合いも設けている。 議事録を使いより具体化した。	3ヶ月1度の「身体拘束適正化検討委員会」には各事業所の管理者が集まって話し合い、その後所内で職員回覧を通じて周知を図っており、「身体拘束排除のための～」「と高齢者虐待防止関連法を含む～」を年間研修計画に位置付け、2回実施を果たしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員で防止に努めるようにしている。 特に会議で力を入れている議題であります。 契約時、家族に防止対策の説明と宣言を追加した。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設としては支援しているが、職員が学ぶ機会は十分とは言えない。 管理者リーダー間では強化し理解を深めたが、他スタッフとの連携は不十分であります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明している。 利用者・家族から質問、不安等あれば、時間を作り対応している。 非常に濃い連携が出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望があれば、スタッフ会議で話し合い、運営に反映させている。 具体的な議論にて業務に活かしています。 コロナ影響の為、FAX・TELにての家族連絡をマメに行い面会は予約制にした。	法人内の他事業所への移設に尽力したところ御礼に マスクが届くといった例もあり、家族とは円満な関係を築いています。最近では電話でのコミュニケーションが中心ですが、「リハビリをやってほしい」といった声を受け取っています。	面会がままならないこともあり、便りと写真のボリュームは増やしていくことを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で意見・提案があった時は、職員が納得するまで十分話し合い、反映させている。 また、日頃職員が意見を言いやすい環境作りに努めている。	スタッフ会議ではカンファレンスを引き続きおこなっており、例えば「この職員じゃないとお風呂に入らない」という要望では職員間に物議を醸していますが、「仲間を中傷しない」「利用者ファースト」を軸にオペレーションを管理者から提案して解決に至っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいのある働きやすい環境作りに努めている。 自画自賛ではありますが、抜群の職場環境であると思います。離職率、勤務姿勢に全て表れています。新人教育のマニュアル整理・一貫性を統一した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修によるランクアップ試験を行っている。 個々とのコミュニケーションとメンタル技量を把握し、それに適した環境作りをしている。 オリエンテーションの内容強化。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営会議で話し合いの場を設け、情報交換をしている。また、定期的に各施設挨拶をスケジュールに組み込み実施している。 年4回の地元施設セミナー交流会に参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行っている。入居直後は、コミュニケーションを密に取り、関係作りに努めている。 入居後の不安や心配事に対し対策と解決策への打ち合わせ強化。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望があった場合は、面談・見学を行い、状況確認に努めるようにしている。また、不安等が強いようであれば、体験入居なども進めている。 入居まで出来る限りの情報収集する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向・ADLを考慮し、必要に応じて福祉用具・リハビリ等の利用ができるように努めている。 これまでの生活習慣を配慮し、参考に対策する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様ができることは、行って頂いている。 食器洗い、洗濯物のたたみ等積極的に協力していただき、一緒に暮らす仲間としての関係を構築できている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族・職員が利用者を支えるパートナーとしての関係を築けている。ご家族様の協力が難しい場合でも、小さなことから協力して頂けるよう、連絡を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等ご面会に来やすい雰囲気作りに努めています。 コロナ対策の為、現在は面会制限中。	面会は頻回でこれまで1日3回だった人もいた為、なんとか「会わせてあげたい」との考えから、毎日の人は週1回と少し減らしてもらいつつ、予約制のうえ時間制限も設けて玄関先での逢瀬を実現させています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がコミュニケーションがとりやすいよう、職員が間に入るように努めている。 相性の良い悪いを考え、席位置の配慮に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後必ず数回その後の様子を移転先に伺っている。 また、その際同業者とのコミュニケーションを深めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族からの情報収集を行い、極力本人の意向に添えるよう努めている。 誠心誠意対応している。	「入居面談報告書」を備え、入居にあたっては家族との面談を通してできるだけ情報を集めようと努めています。最初の1ヶ月は仮プランとし、「孤立しないように」と相性を考慮して席を考える等、何度となく検討し直しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人・家族からの情報収集を行っている。 必ず面談している。 極力今までのあった生活スタイルを持ち込める様、対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の状況の把握は、常に行っている。 性格や相性の分析強化に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度、課題を検討し、介護計画を作成している。 ケアマネとの連携。月2回面談している。	まずたたき台を計画作成担当者がつくり、カンファレンスを経て介護計画書を作成していますが、未だ認知症への理解が不十分なことは否めず、「怖いんです」「困るんです」と訴える一部の職員には、「提案型で」と指導しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有できている。 スタッフ会議、申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族様と話をしながら、できる限りの支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の支援は、行っている。 必要に応じ、診療や医療の提供を行なう。 訪問診療と密度の濃い連携を取っている。	基本的には家族が通院介助をおこない、難しいとなれば事業所で代行しています。月2回訪問診療をおこなう協力医に切り替えた利用者もいます。医師は看護師同伴ですが、早番と遅番の中で上位の者が立ち合い、情報把握が適切にできるよう配しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関に情報を伝え相談し、適切な受診・医療が受けれるようしている。 また、認知症高齢者に関する処遇方法についての相談や利用者の退去に関する相談もしている。 安定剤の知識共有強化。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との面談を行い、利用者の状況把握に努めている。また、ADLの低下をなるべく抑えられるよう、早期退院を目標に連携を常にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明している。また、ADLの変化や医療が必要になった場合は、その都度、本人・家族と相談し方向性を示している。 看取りに関する説明を意識した。	老衰のような形ならターミナルケアに取り組めるとし、「緊急時の対応及び重度化・看取りに関する方針」を以て契約時に家族に説明をおこなっています。お見送りに際しては、事業所で過ごした思い出アルバムを葬儀場に置いてくださるとともに、感謝の言葉が家族から届いています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練が実施していない。施設長による24時間オンコール対応で対応している。 近隣住民スタッフ・リーダー・主任・施設長・サニーメディカル連携強化済み。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防、警察近隣住民との連携を新たに強化した。 30年度台風体験により備蓄と電力対応の強化。 同地区包括主催によるセミナーにて協議。	4月には日中の火災想定でおこなっており、2回目の計画は未定ですが年度内に実施できるよう検討しています。3年程前に4日間の停電を経験したことから ランタンの他、電池は売れるほどに購入おり、山間部のため孤立してしまう不安から非常食は2ヶ月分も備えています。	新採時のオリエンテーションでは、避難経路と通報装置の確認をしておく、なお良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの時には敬語を使い、利用者を尊重した対応をしている。 常に家族が隣にいるつもりで目上の方に対する礼儀礼節を徹底している。 言葉遣いには更に気配りしている。	「居室は同意を求めてから」「お風呂は女性が先」など利用者の気持ちに配慮したマナー、エチケットをハウスルールとしています。また、法人が敷くランクアップ試験を通じて職員にも変化が表れ、利用者を主役とする意識が育ちつつあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意見を伝えやすい環境作りに努めている。 主張の強過ぎる方と弱い方とのバランス対応を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく利用者のペースに添えるように努力している。ルールで縛りすぎない環境作り。 スタッフ → リーダー → 主任 → 施設長対応		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の身だしなみには気を付けている。 本人の意向を尊重。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の商店やスーパーに職員と一緒に出かけ、利用者の好みの物を提供し、食事を楽しめるように取り組んでいる。	昼食は業者の弁当搬入ですが、朝夕は職員が食材買い出しと調理をおこない、みそ汁も具だくさんで主婦ならではの煮物やおひたしは利用者にも好評です。味見や食器拭きを手伝ってくださる利用者もあり、「私の仕事」と思っている人もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、料理全体の量を個人に合わせている。また、水分量には気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者が出来るところまで行って頂き、出来ないところを職員が支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレの声掛けを行っている。 最大限の配慮と最低限の支援介助。	排泄チェック表をつけ、「できる限りトイレで」を励行しています。記録は把握しやすいように、記号や色分けしており、例えば水様便なら「水」と付け、職員間で共有しています。また「マイナス7日は浣腸」というように、対応ルールの取り決めもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理や日々の水分補給などで工夫している。 医療連携により処方とアドバイスによる対応。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日・時間は決まっているが、楽しんで入浴してもらえるよう努めている。 スタッフとの相性を取り入れている。	お湯は入れ替えはなく、温度をあげながらかけ流しです。浴剤は毎回入れていて、色や香りについて職員と話したり、柚子など時節風呂を取り入れてもいます。また着脱、着衣の折には身体の変化も確認し、発赤や発疹から大事を手前で防げたこともあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や習慣に合わせ、横になる時間を設けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が共有できるファイルがある。受診後は、内容を周知している。 医師の指示を参考に対応(打合せ)している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なるべく利用者一人一人の楽しみごとを把握し、気分転換できるよう支援している。 コロナ時の為、対策中。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者と何を食べたいか相談し、毎月外食に出かけ、気分転換を図っている。 公園などで季節の花を楽しんだり、祭りなどのイベントに参加するなど、日常的にも外出の機会を多く持つようにしている。 2月以降は、バーベQのみ。	コロナ禍前は「森林公園まつり」「菰祭り」「初詣」「いちご狩り」「毎月の外食」などの外出支援が叶っていましたが、現在は散歩のみとなっています。最近プランター栽培(土が良くないため)を始めており、「利用者の気分転換となれば」と期待が膨らんでいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、施設で行っている。 主任・リーダーで対応している。 一人一人の帳簿にて対応。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が得られるように、飾り付けなどを行い、心地よい空間作りに努めている。 居間に隣接して広いテラスが設けられ、パーベキューなどを行うこともできる。 行事に応じイベント開催。	朝昼夕と1日3回換気をおこなうとともに、次亜塩素酸水でこまめにアルコール消毒に励んでいます。大きな窓から山や川を日々眺めることができ、広いテラスではBBQやお茶会も開催され、共用空間にはゆったりとした時間が流れています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に隣接して広いテラスが設けられ、利用者が自由に出入りできるようになっている。自分で洗濯物を干したり、設置されたイスで日向ぼっこなど行うこともできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に近い環境で過ごして頂けるよう、使い慣れた物を施設でも使って頂くなどして、配慮している。	「全室毎日掃除では丁寧さに欠ける」との判断から1日1部屋を集中して順次取り掛かるとの方法に替えていて、試行中です。洋服を大量にもってきて難儀だった例もありますが、入居にあたっては「いままでの生活環境をそのままもってきてくださいね」と伝えていきます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるように、利用者のADLに合わせ施設内を工夫するように努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200999		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイ西里 (なのはな)		
所在地	静岡県静岡市清水区西里1460-1		
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果市町村受理日	令和3年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2294200999-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“その人らしく、安心した暮らし、なじみの暮らし”を理念に、利用者一人一人の個性を大切に、信頼関係を築きながら尊厳と自信のある暮らしが継続できるよう支援しています。また、礼儀礼節マナーの強化とサービス業である事の自覚を高める。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

私事や「65歳以上で」との離職は数名あるものの、「此処が合わない」「無理…」といった退職者がおらず、「働きやすく、チームワークがよい」ことが自慢の事業所です。「三匹のタイ(誉められタイ)(認められタイ)(お役に立ちタイ)」を事務所に掲げ、管理者がその人のいいところを見出し、管理者には出来ないがその人は得意というものを依頼したり、担当とすることで職員の有用感が増していることが功奏しています。職員の意欲の増幅は「その数ナント12名」と貴重な若い男性職員を法人に仲介したり、息子がお母さんを紹介するなど事業所全体の益に実っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誹謗中傷陰口の徹底追及と禁止、又自分に厳しく人に優しいをモットーに更に職場環境は改善されている。 新人育成とオリエンテーションにて取り入れている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ対策として最大限の配慮にてバーベQや行事は行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括主催の近隣施設管理者との意見交換イベントに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策に向け、延期通知済み。 現状年6回の運営会議が出来ておらず、地元包括や組合長との連携を強化していく。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市・地域包括支援センター・地元自治会と相互の協力体制を築いている。 地域包括支援センターを通じて、情報をもらったり、またサービス利用など介護に関する相談に応じている。 防災、コロナ対策につき連携強化している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状、身体拘束は行っていない。 職員にも理解してもらう為に、何かあれば、その都度説明をし取り組んでいる。 スタッフ会議、管理者会議にて話し合いも設けている。 議事録を使いより具体化した。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員で防止に努めるようにしている。 特に会議で力を入れている議題であります。 契約時、家族に防止対策の説明と宣言を追加した。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設としては支援しているが、職員が学ぶ機会は十分とは言えない。 管理者リーダー間では強化し理解を深めたが、他スタッフとの連携は不十分であります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明している。 利用者・家族から質問、不安等あれば、時間を作り対応している。 非常に濃い連携が出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望があれば、スタッフ会議で話し合い、運営に反映させている。 具体的な議論にて業務に活かしています。 コロナ影響の為、FAX・TELにての家族連絡をマメに行い面会は予約制にした。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で意見・提案があった時は、職員が納得するまで十分話し合い、反映させている。 また、日頃職員が意見を言いやすい環境作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいのある働きやすい環境作りに努めている。 自画自賛ではありますが、抜群の職場環境であると思います。離職率、勤務姿勢に全て表れています。新人教育のマニュアル整理・一貫性を統一した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修によるランクアップ試験を行っている。 個々とのコミュニケーションとメンタル技量を把握し、それに適した環境作りをしている。 オリエンテーションの内容強化。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営会議で話し合いの場を設け、情報交換をしている。また、定期的に各施設挨拶をスケジュールに組み込み実施している。 年4回の地元施設セミナー交流会に参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行っている。入居直後は、コミュニケーションを密に取り、関係作りに努めている。 入居後の不安や心配事に対し対策と解決策への打ち合わせ強化。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望があった場合は、面談・見学を行い、状況確認に努めるようにしている。また、不安等が強いようであれば、体験入居なども進めている。 入居まで出来る限りの情報収集する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向・ADLを考慮し、必要に応じて福祉用具・リハビリ等の利用ができるように努めている。 これまでの生活習慣を配慮し、参考に対策する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様ができることは、行って頂いている。 食器洗い、洗濯物のたたみ等積極的に協力していただき、一緒に暮らす仲間としての関係を構築できている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族・職員が利用者を支えるパートナーとしての関係を築けている。ご家族様の協力が難しい場合でも、小さなことから協力して頂けるよう、連絡を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等ご面会に来やすい雰囲気作りに努めています。 コロナ対策の為、現在は面会制限中。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がコミュニケーションがとりやすいよう、職員が間に入るように努めている。 相性の良い悪いを考え、席位置の配慮に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後必ず数回その後の様子を移転先に伺っている。 また、その際同業者とのコミュニケーションを深めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族からの情報収集を行い、極力本人の意向に添えるよう努めている。 誠心誠意対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人・家族からの情報収集を行っている。 必ず面談している。 極力今までのあった生活スタイルを持ち込める様、対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の状況の把握は、常に行っている。 性格や相性の分析強化に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度、課題を検討し、介護計画を作成している。 ケアマネとの連携。月2回面談している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有できている。 スタッフ会議、申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族様と話をしながら、できる限りの支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の支援は、行っている。 必要に応じ、診療や医療の提供を行なう。 訪問診療と密度の濃い連携を取っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関に情報を伝え相談し、適切な受診・医療が受けれるようしている。 また、認知症高齢者に関する処遇方法についての相談や利用者の退去に関する相談もしている。 安定剤の知識共有強化。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との面談を行い、利用者の状況把握に努めている。また、ADLの低下をなるべく抑えられるよう、早期退院を目標に連携を常にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明している。また、ADLの変化や医療が必要になった場合は、その都度、本人・家族と相談し方向性を示している。 看取りに関する説明を意識した。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練が実施していない。施設長による24時間オンコール対応で対応している。 近隣住民スタッフ・リーダー・主任・施設長・サニーメディカル連携強化済み。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防、警察近隣住民との連携を新たに強化した。 30年度台風体験により備蓄と電力対応の強化。 同地区包括主催によるセミナーにて協議。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの時には敬語を使い、利用者を尊重した対応をしている。 常に家族が隣にいるつもりで目上の方に対する礼儀礼節を徹底している。 言葉遣いには更に気配りしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意見を伝えやすい環境作りに努めている。 主張の強過ぎる方と弱い方とのバランス対応を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく利用者のペースに添えるように努力している。ルールで縛りすぎない環境作り。 スタッフ → リーダー → 主任 → 施設長対応		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の身だしなみには気を付けている。 本人の意向を尊重。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の商店やスーパーに職員と一緒に出かけ、利用者の好みの物を提供し、食事を楽しめるように取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、料理全体の量を個人に合わせている。また、水分量には気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者が出来るところまで行って頂き、出来ないところを職員が支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレの声掛けを行っている。 最大限の配慮と最低限の支援介助。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理や日々の水分補給などで工夫している。 医療連携により処方とアドバイスによる対応。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日・時間は決まっているが、楽しんで入浴してもらえるよう努めている。 スタッフとの相性を取り入れている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や習慣に合わせ、横になる時間を設けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が共有できるファイルがある。受診後は、内容を周知している。 医師の指示を参考に対応(打合せ)している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なるべく利用者一人一人の楽しみごとを把握し、気分転換できるよう支援している。 コロナ時の為、対策中。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者と何を食べたいか相談し、毎月外食に出かけ、気分転換を図っている。 公園などで季節の花を楽しんだり、祭りなどのイベントに参加するなど、日常的にも外出の機会を多く持つようにしている。 2月以降は、バーベQのみ。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、施設で行っている。 主任・リーダーで対応している。 一人一人の帳簿にて対応。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が得られるように、飾り付けなどを行い、心地よい空間作りに努めている。 居間に隣接して広いテラスが設けられ、バーベキューなどを行うこともできる。 行事に応じイベント開催。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に隣接して広いテラスが設けられ、利用者が自由に出入りできるようになっている。自分で洗濯物を干したり、設置されたイスで日向ぼっこなど行うこともできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に近い環境で過ごして頂けるよう、使い慣れた物を施設でも使って頂くなどして、配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるように、利用者のADLに合わせ施設内を工夫するように努めている。		